

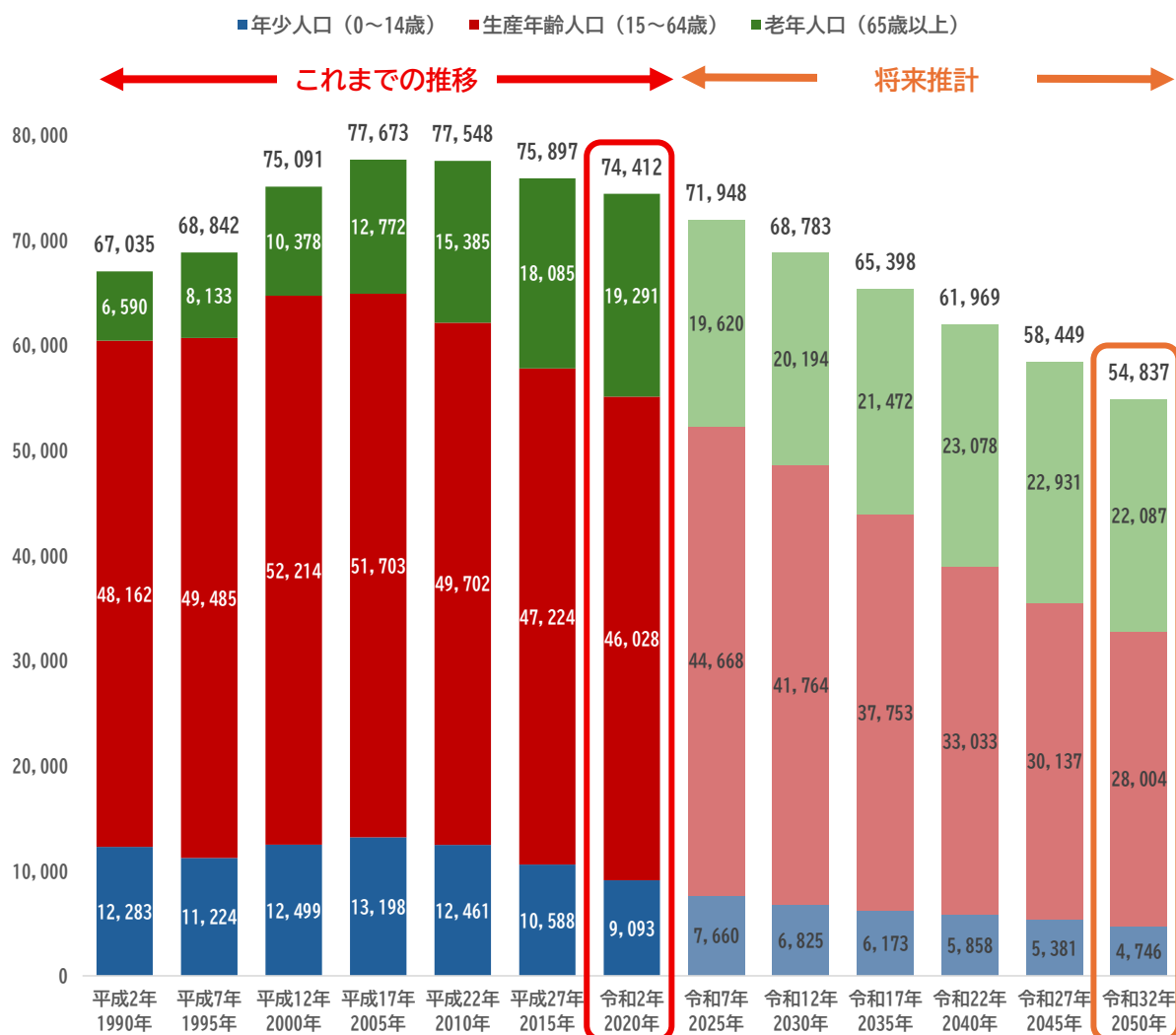
泉大津市公共施設を取り巻く現状について

1. 人口の現状と将来推計人口

これまでの推移によると、本市の人口は、平成2年から平成17年まで増加傾向にありましたが、その後、減少に転じています。年齢別構成人口をみると、老年人口が増加し、生産年齢人口率及び年少人口率が減少しており、少子高齢化（子どもが減って、高齢者が増えること）が進行していることがわかります。

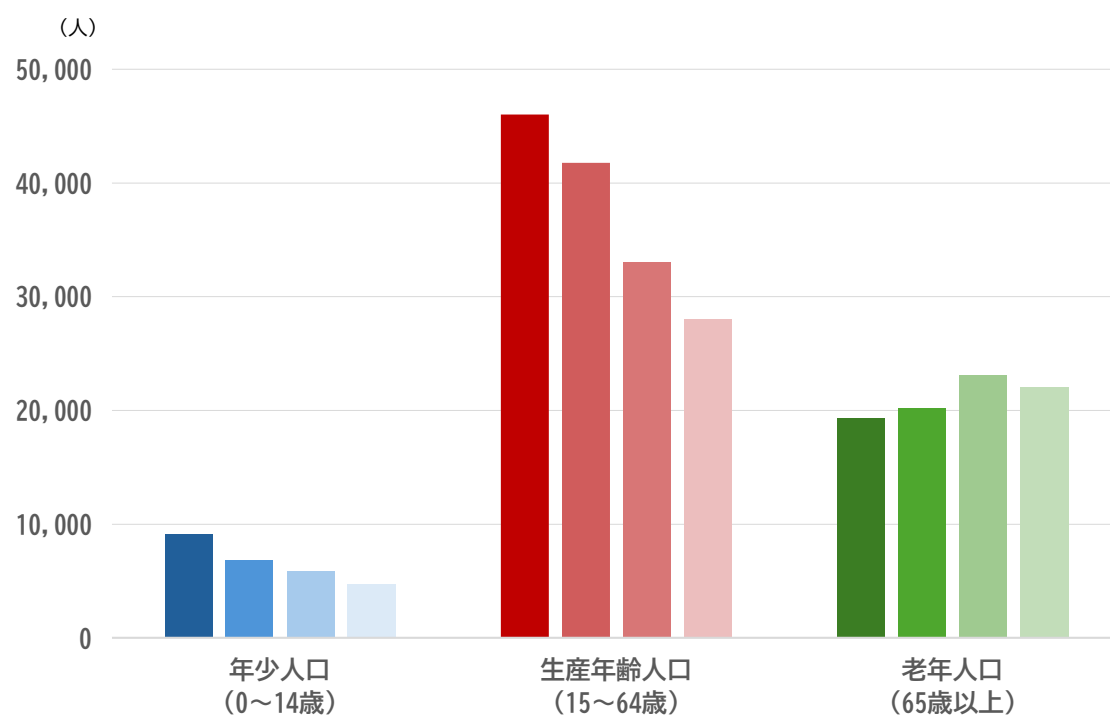
また、これまでの推移及び将来推計より、令和2年と令和32年で比較すると、本市の人口は、20,375人（27.4%）減少する見込みとなっています。年齢別構成人口をみると、年少人口は4,347人（47.8%）の減少、生産年齢人口は18,024人（39.2%）の減少が見込まれますが、老年人口は2,796人（14.5%）の増加が見込まれ、今後、少子高齢化が著しく進行することが予測されます。

図 泉大津市の総人口（年齢別人口）の実績と見通し



※令和2年までは国勢調査、令和7～32年は「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）より引用

図 泉大津市の年齢別人口の見通し

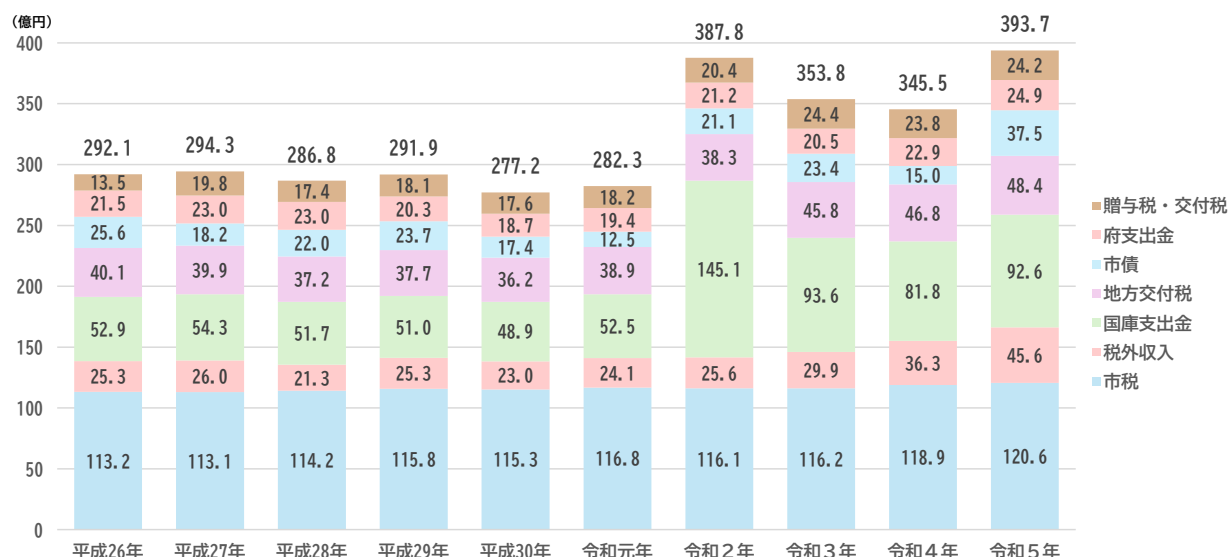


| | 年少人口 (15歳未満) | 生産年齢人口 (15～64歳) | 老年人口 (65歳以上) |
|----------------|-----------------|--------------------|-----------------|
| 令和2年 2020年 | 9,093 | 46,028 | 19,291 |
| 令和12年 2030年 | 6,825 | 41,764 | 20,194 |
| 令和22年 2040年 | 5,858 | 33,033 | 23,078 |
| 令和32年 2050年 | 4,746 | 28,004 | 22,087 |

2. 財政の現状

①歳入

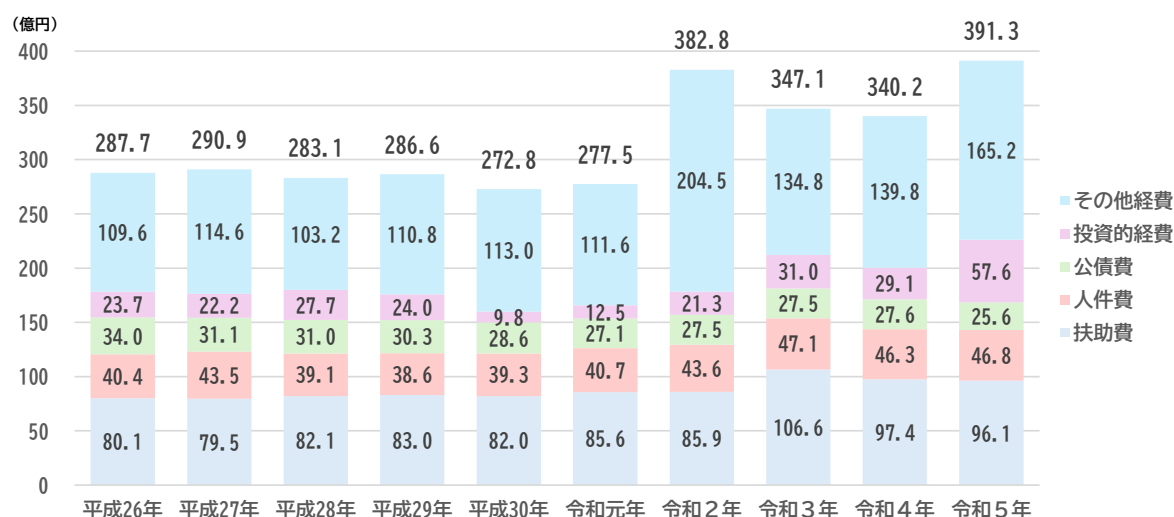
普通会計の歳入額は令和元年度まで概ね横ばい傾向にありましたが、令和2年に急増し、その後、345.5億円から393.7億円の間で高止まりしています。また、歳入のうち、主要な自主財源である市税は微増しており、令和5年は120.6億円となっています。



※端数処理のため合計と内訳が一致しない場合があります。

②歳出

令和5年度における普通会計の歳出額は約391.3億円であり、令和2年度以降は340.2億円から391.3億円の間で推移しています。その内、扶助費※が平成26年度の80.1億円から、令和5年度の96.1億円へと大幅に増加しています。



※扶助費とは、主に児童・高齢者・生活困窮者支援に係る費用のことをいいます。

※端数処理のため合計と内訳が一致しない場合があります。